



家族読書お世話になりました



先月の校内読書月間に合わせて取り組んでいただいた、家族読書にはご協力いただき、ありがとうございました。感想の一部を紹介します。(一部省略)

3年生:一日3冊くらい読めたのでよかったです。家族読書が終わってもいっぱい本を読んでいます。保護者:一日に何冊も本を読み進め楽しい時間を過ごしていました。妹への読み聞かせもとても上手で、穏やかな兄妹時間を過ごしている様子があり嬉しく思いました。本の温もりを感じる2週間となりました。これからもたくさんの本と出合ったいと思います。

4年生:いつも夜2・30分くらい、お母さんが本を読んでもらったので、とても嬉しかったです。保護者:よいコミュニケーションが取れました。子供が選んできた本が、とても夢中になれる内容の物語でしたので、親の私も一緒に楽しく読むことができました。これからも続けていきたいと思えます。寝る前に、TVやゲームなどブルーライトを見ずに済むので、とても良い習慣になりました。

6年生:いつもは自分一人で読んでいるけど、家族と話をしながら読んでとても楽しかったです。これからも時々一緒に本を読んでいけたらと思います。保護者:このような機会を得たことで、各々で本を読む穏やかな時間ももてる事はもちろんの事、今娘が、どのような本に興味を持ち、どのような思いや感想、考えをもっているのかを話し合う有意義な時間をもてました。今後も様々な本に触れ、感性を磨き、学びを得てほしいと思います。

今回の家族読書は、「親から子への読み聞かせ」「子が親・きょうだいへの読み聞かせ」「場や時間を共有してそれぞれ別の本を読む」「別々の本を各自で読んで感想を共有しあう」「1冊の本を各自で読んで感想を共有しあう」など、やり方は様々だったようです。中・高学年になってくると、本を読んでも子供の方から、反応を表に出してこないようになることもあります。そのときは、保護者の方から「私もあなたの読んでいる本を読んでみたけど、どう思った? 私はこう感じたよ。」などと問い掛けることも、親子の繋がりを作っていく意味で重要ではないかと思えます。

保護者の方の感想の伝え方も、飾ることなく、「ここはおもしろかったね。」「ここは、ドキドキした場面だった。」などと素直に伝えると、本を介して親子のコミュニケーションが豊かになっていくと思えます。これからも、家庭の状況やお子さんの実態に合わせて、本と出会い豊かな感性を育てたいと思えます。

わくわくチルドレン紹介

熊本県小中学校作曲コンクールが行われ、自由作曲の部で、3年生の土田佳苗さんが準特選を受賞しました。曲のタイトルは「わくわくドキドキコースター(下楽譜・一部抜粋)」で、土田さんは「コースターの速さを表現しようと思いました。最初はゆっくりと登っていくイメージで、急降下していく様子を表しました。」と曲作りで工夫したことを教えてくれました。表彰式は、14日(土)にあるそうで、「大変だったけど、賞を取ったら達成感があり、嬉しいです。」と喜びを口にしています。また、同部門で3年生の土田快晴さんも佳作を受賞し、きょうだいでダブル受賞となりました。おめでとうございます!

